

★第2回ボランティアガイダンス★

今、何かを始めたい！そう思っているあなた！！「ボランティア」に参加してみませんか？
でも、どうやって始めたら良いのか分からない…。
ボランティアって何かスゴイ事みたいで近寄りにくいし、いい人ぶってるみたいで…

そんなあなたにピッタリの場所を私たちが用意しました！！

第1回ボランティアガイダンスを逃してしまったあなたも、初めて知ったあなたも、きっと何かが見つかるはず(^O^)新しい自分に出会うチャンス！ぜひぜひ覗きにきてね★

日時：6月30日(月)～7月3日(木)

時間や内容は日によって違うので裏面をチェック！！

場所：以学館地下1F 多目的ホール3

内容：ボランティアについての講演会、ボランティア活動先紹介

体験、交流、相談など。当日は、ボランティア団体や実際

に活動されている方にブースでもお話が聞けますよ！

主催：ボランティアセンター設立プロジェクト

問い合わせ先

津止教授：修学館314

ボランティアセンター設立プロジェクト vc_pro@infoseek.jp

だれでも気軽に空いてる時間に来てくださいな♪

【資料 1】

☆☆ボランティアガイダンス日程☆☆

～第一日目～(6月30日)

★ボランティア講演会&グループディスカッション(16:40～18:00)

講演会

ボランティアを知ってみよう！！

講演者:深尾 昌峰さん(きょうとNPO センター事務局長)

～ボランティアって何？NPOって？～

ボランティアについての基本的なお話や、NPOについてのお話をして頂きます！！

グループディスカッション

いくつかのグループに分かれて気軽にみんなでおしゃべりしましょう★

～第二日目～(7月1日)

★ボランティアブース&ボランティア体験

ボランティアブース(15:00～18:30)

どんなボランティアがあるの？！

ボランティア活動先のブース出展、相談コーナー、チラシコーナー、

フリースペース(お菓子もあるからゆっくり見ていって下さい♪)

やってみたい！を体験しよう PART I (13:30～18:30 以学館1階援助技術指導室 I)

「もし私がハンデをもっていたらどんな1日なんだろう…」

(ハイテク風呂とベッドを体験したり、アイデア食器でグルメを堪能したりしませんか？

もちろん、介護体験も出来ますよ！)

～第三日目～(7月2日)

★ボランティア体験

やってみたい！を体験しよう PART II (13:30～18:30)

「車椅子で以学館を探検だっ！」

(あなたの以学館を見る目が変わるかも…)

「もし私が80歳なら…」

(高齢者の気持ち、姿になれる色んな器具で80歳になってみよう！時は2063年…)

☆その他、片半身マヒ疑似体験や食事介助も出来ます！

やってみたい！を体験しよう PART III (16:30～19:00)

「そうだ！ノートテイクだ！！」

(障害学生の学習支援として今、最も立命館大学内で必要とされているスキルの一つに

ノートテイクがあります。講師を招いてノートテイクのいろはを学びませんか？楽しいよ☆)

～第四日目～(7月3日)

★ボランティアブース(15:00～18:30)

どんなボランティアがあるの？！

二日目と内容は同じだけど、ボランティア団体はちょっと変わります★

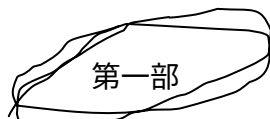
【資料 2】

今日は、四日間に渡るガイダンスの第一日目！！

今までボランティアに参加した事のある人もそうでない人も、ボランティアに対する疑問を解消し、情報をたくさん持って帰って行って欲しいと思っています★
そしてそのガイダンスの記念すべきスタートを飾る企画は…

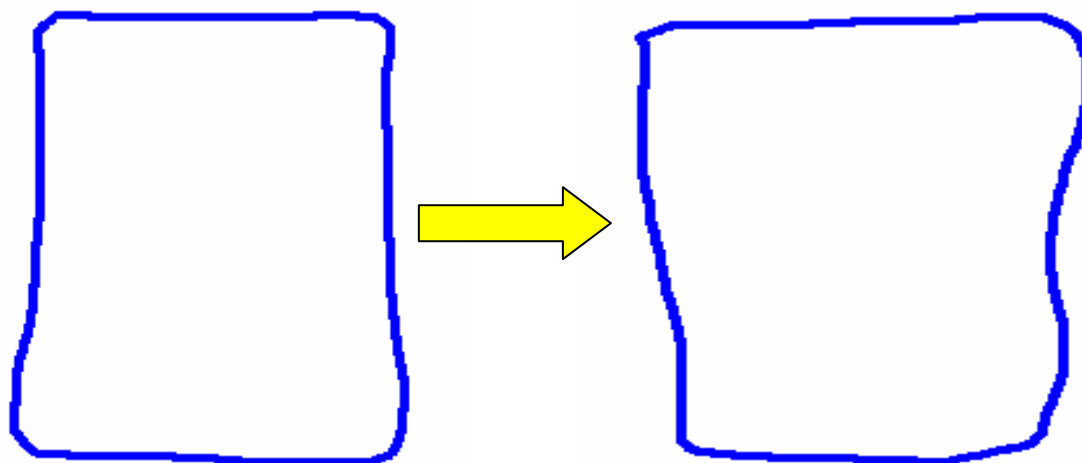
講演会&グループディスカッション！

今日はこの二つの企画を、一部と二部に分けて進めていきたいと思います。



今回の講演でお話をして下さるのは、きょうとNPOセンターの事務局長であり、
市民活動総合センターのセンター長である、**深尾 昌峰さん**です！

今回の講演会では「**ボランティアって？NPO って？**？」というテーマでお話していただきます。これは本当に基本的な事だけど、説明する事は簡単な事ではないですよね？今回のお話を聞いて、基本的な知識をつけて自分の中でも整理をしてみてください。そこでまず、下の左側の空白にお話を聞く前に今の段階での、あなたの「ボランティア」「NPO」についてのイメージを書いてみて下さい。そして講演会后、そのイメージはどのように変化しているのでしょうか…？



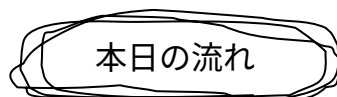
【資料 2】



次はみなさんが中心になっての「グループディスカッション」です★

深尾さんのお話を聞いて感じた事、はじめと今とで変化したボランティアイメージなど、どんどん意見を交換してみてください。人と話してみると、以外な意見を聞く事が出来たり、自分でも気付いていなかった自分の考えが見つかる事もあると思います。

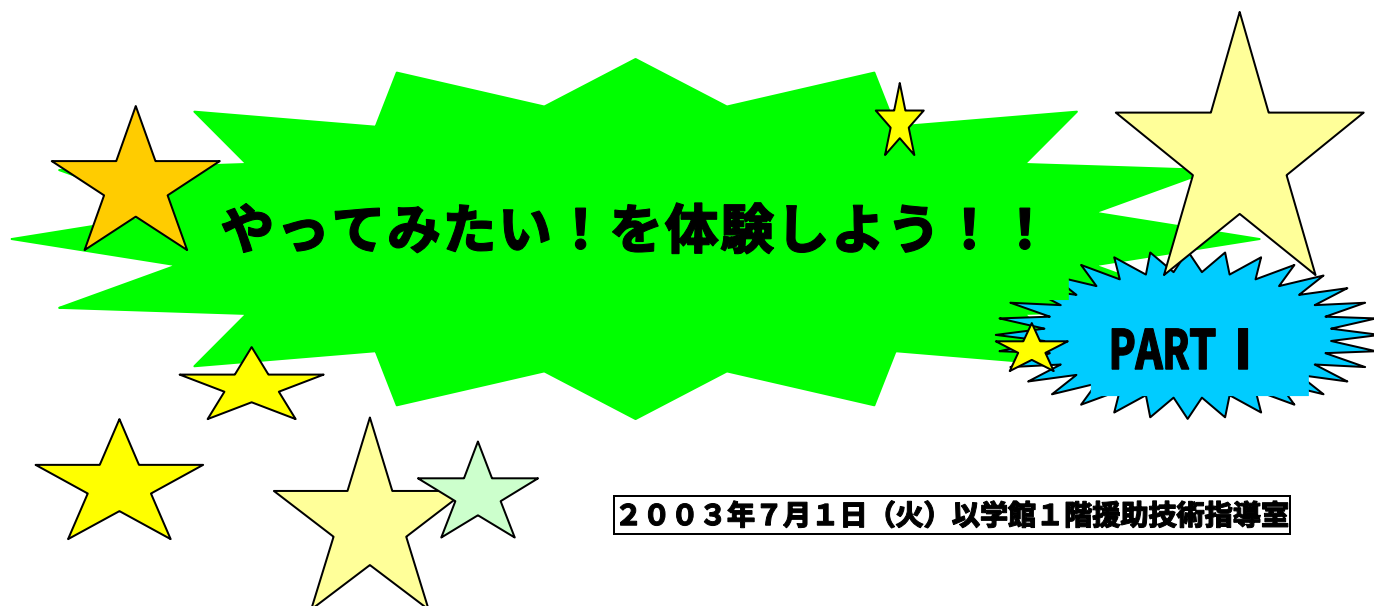
みなさん！積極的にどんどん意見を出し合いましょう(＾o＾)



- 🕒 16:10 会場
- 🕒 16:40 深尾さんによる講演開始
↓ 「ボランティアって？NPOって？」
- 17:20 講演会終了
- 🕒 17:25 グループディスカッション開始
↓
- 17:45 グループディスカッション終了
- 🕒 17:45 質疑応答
- 🕒 18:00 終了

今日の講演会とグループディスカッションはどうでしたか？

今回の話をきっかけに、みなさんのボランティアに対する考えやイメージが大きく広がる事が出来たのなら、この講演会は成功だったと言えるでしょう！今日は参加して頂き、本当にありがとうございました。明日からのボランティアガイダンスにも是非参加してくださいね★



MoshiWatashi Ni H a n d e G a A t t a r a D o n n a I c h i n i c h i N a n D a r o u
もし 私 にハンデがあったらどんな1日なんだろう！

■ はじめに 「この体験を通して・・・」

今日は第二回ボランティアセンターガイダンス「やってみたい！を体験しよう part I」に参加してくださり誠にありがとうございます！！みなさんに、この体験を通して介護ベッドや介護用風呂などの操作方法を知っていただくと同時に、実際に介護される側の気持ちなどを肌で感じていただければなあと思います。今までには感じたことのない“何か”を今日を通して感じていただけたら幸いです。では、これからたくさん楽しんで体験してください☆

■ 今日のメニュー

①お風呂体験

最新ハイテクお風呂を初体験☆介護される側の気持ちってどんなものなんだろう??

②ベッド体験

介護用ベッドを体験してみましょう！！簡単な介護技術もスタッフが分かる範囲でお教えます♪ここでも介護される側の気持ちがきっとわかるはず・・・☆

③食事介助&アイマスクをして食事をしてみよう！！

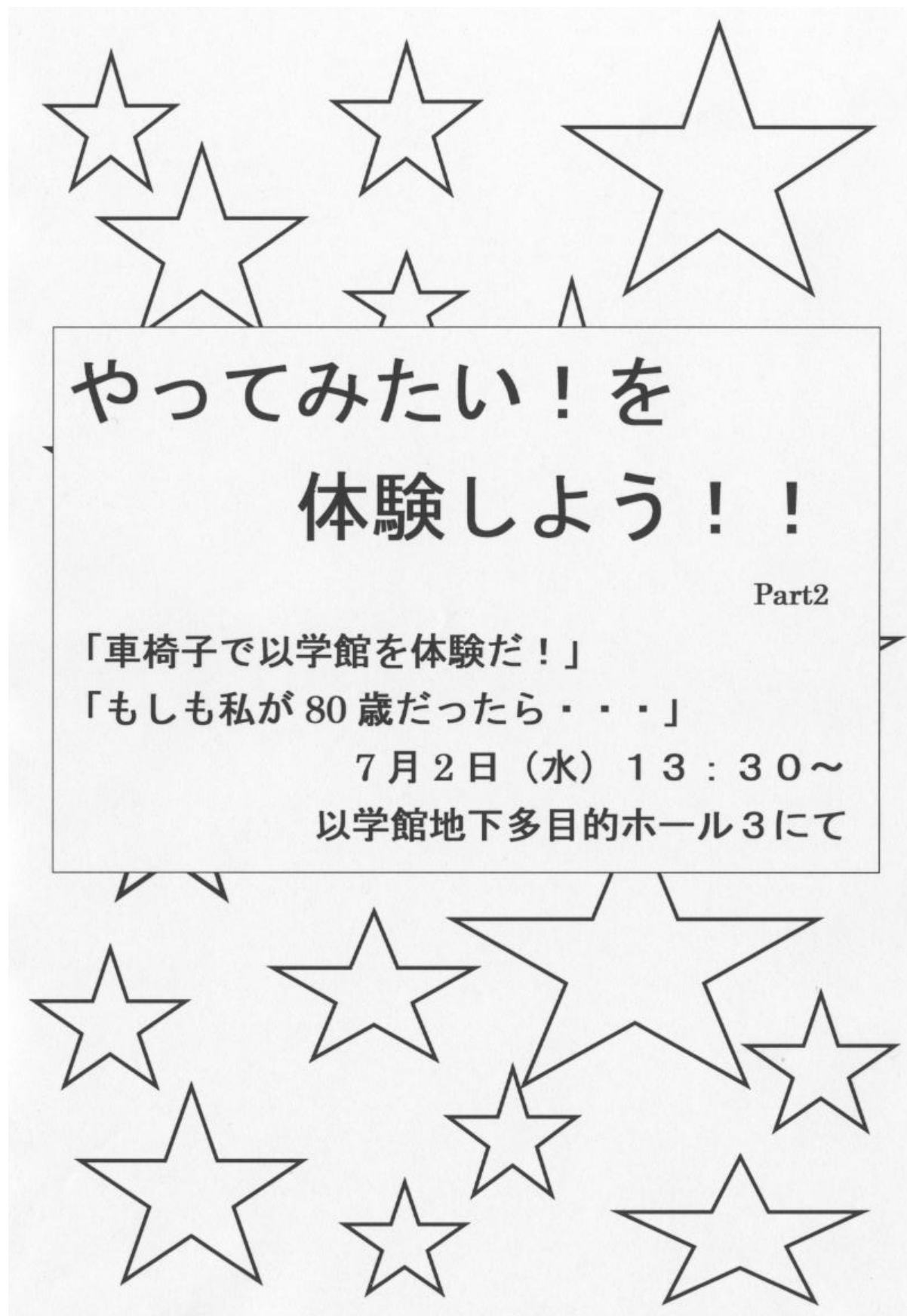
- ・アイマスクをして鼻をつまんでジュースを飲んでみると・・・あら不思議☆☆

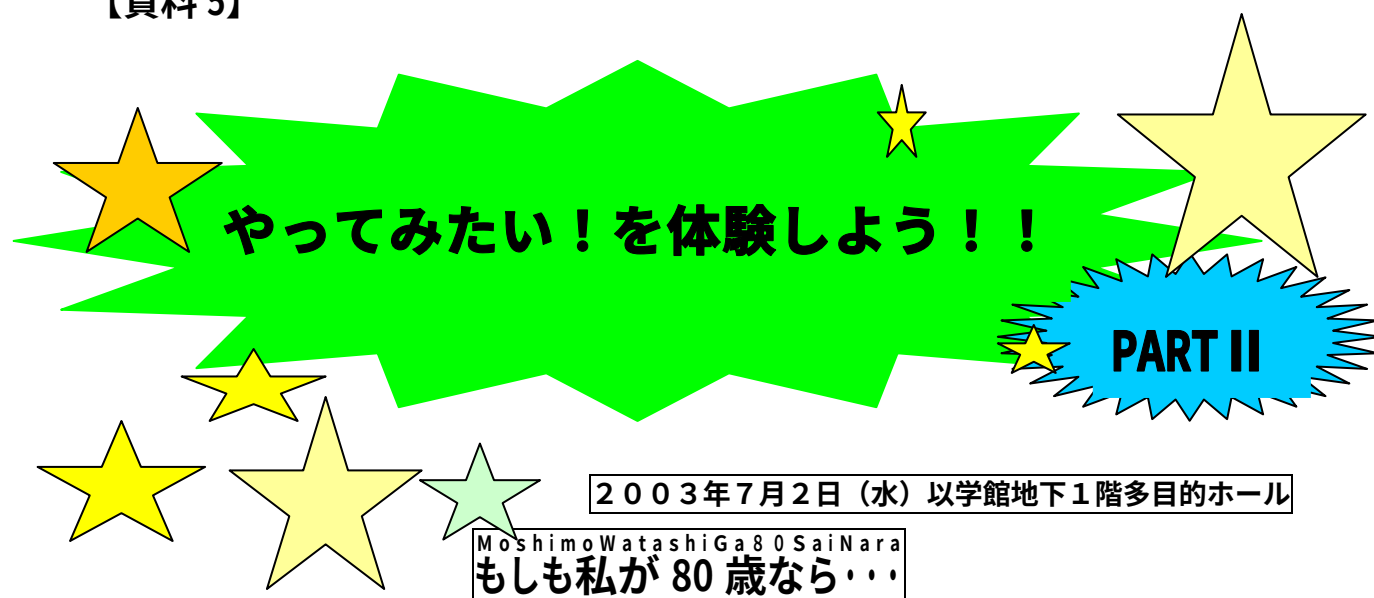
結果は体験してのお楽しみ♪ぜひやってみましょう！！

- ・アイデア食器を使ってグルメを堪能！！

持ち手が曲がる不思議なスプーンやアイデア食器を使って食事をしてみましょう！！

食事介助を体験することにより、相手にとってどんな情報が有益なのか…なんてこともきっとわかるはず！！





■ はじめに 「この体験を通して・・・」

今日は第二回ボランティアセンターガイダンス「やってみたい！を体験しよう part II」に参加してくださり誠にありがとうございます！！みなさんに、この体験を通して今若者のあなたが高齢になった時の体の感覚を肌で感じていただくと同時に、高齢者として見る世界、（キャンパス内の環境・周りの人の視線など）を感じていただければなあと思います。今までには感じたことのない“何か”を今日を通して感じていただけたら幸いです。では、これからたくさん楽しんで体験してください☆

■ 高齢者体験ウェアを装着してみよう！！

■ 1 ■ 装着前に

- ・ 2人ペアになってください。装着する順番を決めましょう。
- ・ ウェアは順序に沿ってゆっくり装着しましょう。
- ・ 体験者はゆっくり慎重に動きましょう。（無理はしないでね☆）

■ 2 ■ 装着手順

- ・ 効き足に靴型のサポーターをつける
- ・ 同じ足に膝サポーターをつける
- ・ 同じ足に錘をつける
- ・ 上半身ベストを着る
- ・ 上半身ベストのポケットに錘を入れる
- ・ 利き手の肘にサポーターをつける
- ・ 同じ手首に錘（小）を巻く
- ・ 耳栓を両耳に入れる
- ・ ゴム手袋→白手袋→手のサポーターを順番につける
- ・ めがねをかける
- ・ 利き手でないほうの手に杖を持つ

【資料 6】

<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/re/k-rsc/hs/volunteer/volunteer.htm>

Rits ボランティアガイダンス

「ボランティアってなんだろう」、「どうやって始めたらいいの？」・・・
関心のあるひと、ぜひご参加ください。

■日 時 2003年6月30日(月)～7月3日(木)
■場所はいずれも 衣笠キャンパス 以学館 BF 多目的ホール 3

企画内容・日程

「ボランティアを知って見よう」講演会とグループディスカッション 「ボランティアって何？NPOって？」 深尾 昌峰氏（きょうと NPO センター事務局長）	6/30（月） 16:40-18:00
--	------------------------

第一日目の6月30日、深尾昌峰さん（きょうと NPO センター事務局長）を迎え、講演会とグループに分かれてのディスカッションが行われました。

自己実現、仲間作り、社会とのつながり、人との結びつき.... 人それぞれの関わりの中で展開されている「ボランティア活動」というものの説明は、学んでも、議論しても明確な答えを導き出すのは難しいかもしれません。



形にとらわれない、そこにボランティアの強みがあり、より多くの言葉で語れることこそが大切なのではないのでしょうか。

三つのグループに分かれてすすめられたディスカッションは大いにもりあがり、それぞれの体験談や未経験者へのアドバイス、ボランティア活動への思いなど、一日中でも語り合っていたいとの感想もありました。

ボランティアブース 「どんな活動があるのか？いろんな分野が知りたい！」 ＜ボランティア活動先のブース出展、相談コーナー他＞	7/1（火） 15:00-18:30
---	-----------------------

7月1日にブース出展に協力願った団体

がんばクラブ / 子育て支援ネットあいあい / サポート隊 / 下京青少年センター / 修徳児童館 / NICE / のびのび / FINE / ポピー / 洛西クラブ

【資料 6】

各学部、研究科から参加頂いた方からは、「どんな活動があるのか情報が得られた」「ビラなどだけでなく具体的な話が聞けてよかった」「これを契機に始めてみようかと考えた」「ボランティアを楽しそうにやっている雰囲気が感じられた」などの感想が寄せられました。ご参加いただいたみなさん、ご協力いただいた各団体のみなさま、ありがとうございました。



体験しよう Part I

「もし私にハンデがあったらどんな一日なんだろう…」
 <ハイテクフロとベッドの体験、アイデア食器でグルメを堪能>

7/1 (火)
 13:30-18:30

以学館 1F 援助技術指導室 1 において、ハイテク風呂体験とアイデア食器による視覚障害者の食事疑似体験、介護体験などが行われました。

実際に自身で体験したり、介助のイメージがつかめるコーナーとして設けました。

7月2日は、「車いす体験」と「80歳の高齢者体験」を予定しています（13:30-18:30）。よくありそうなハンデを持った目で見ると、「以学館」はどんな風に見えるのでしょうか？



また、障害のある学生の学習支援のスキルとしてニードの高い「ノートテイク」のノウハウを身につけることが出来るよう、講師をお招きしました（16:30-19:00）。あなたご自身のためにも、ちょっと得する講習会です。ご参加をお待ちしています。

体験しよう Part II

「車椅子で以学館を探検だ!」, 「もし私が 80 歳なら…」

7/2 (水)
 13:30-18:30



以学館を舞台に、車いす体験や高齢者体験（重りや関節抑制での疑似体験）による建物探訪が行われました。車いすからの視点では、ちょっと気づかない不自由さや比較的改善が進んでいるといわれている以学館でも、行動に手こずることがあって、それぞれ新しい発見があったよ

【資料 6】

うです。

「80歳になるうちのおばあちゃんは、こんな風に行動の不自由さを感じていたのですね」としみじみとした感想もありました。

体験しよう PartⅢノートテイク入門講座 「そうだ！ノートテイクだ！」	7/2（水） 16:30-19:00
---	-----------------------

京都市要約筆記サークル「かたつむり」のメンバー、西原泰子さん、柳田和子さん、長島智代さんのご協力をいただき、ノートテイク講座を実施しました。

まず、京都が発祥の地とされている「要約筆記」の成り立ちについて学びました。速く・正しく・読みやすくという要約筆記の三原則をふまえつつ、大学における講義保障としてのノートテイクのためにも、聞き取るチカラとポイントをつかんで要約するチカラ、事前学習予備知識準備の必要性、固有の用語のマスター、主観を入れず、5W1Hと助詞を大切にアツカウこと。複数の協力体制の必要性などが紹介されました。

「ノートテイクボランティアをやってみたい」など受講者のみなさんには、大いに関心を持って頂くことができました。



ボランティアブース 「どんな活動があるのか？いろんな分野が知りたい！」 ＜ボランティア活動先のブース出展、相談コーナー他＞	7/3（木） 15:00-18:30
---	-----------------------

今回ご協力をいただいたボランティア団体

「介護支援情報ネットワーク ふれあい YOU（高齢者・障害者）」「がんばクラブ（障害児）」「気候ネットワーク（環境）」「健光園ボランティアの会（高齢者）」「子育て支援ネットあいあい（子ども）」「サステイナブル・コミュニティ（IT・情報・まちづくり）」「下京青少年センター（子ども・スポーツ）」「障害者カヌー（障害者）」「塔南の園児童館（子ども）」「のびのび（障害児）」「ポピー（障害者）」「もえちゃんねっと（障害児）」「洛西クラブ（障害児）」「リトルトータス（障害児）」

来訪者のみなさんの熱気で、「少し狭いのでは」とのご指摘もいただいてしまいました。出店でご協力頂いた各団体のみなさん、ご参加のみなさんありがとうございました。

これらの情報を日常的に提供できるように、R i t s ボランティアセンター立ち上げ

【資料 6】

に向けての研究・検討を引き続きすすめたいと思います。



ご希望の皆さんには、このプロジェクトからメールマガジンを差し上げています。

会場のアンケート用紙またはスタッフにお申し出ください。「問い合わせ先」宛にメールをいただいても結構です。

【資料 7】

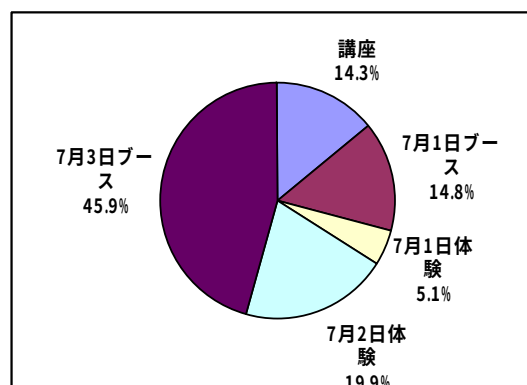
第 2 回ボランティアガイダンス感想及びアンケート集計

多くの学生にボランティアに関心を持ってもらう為に 6 月 30 日～7 月 3 日に講演会、体験、ブースの部門に分けて第 2 回ボランティアガイダンスを行った。のべ参加者数は 196 人であった。

全体の結果

企画別参加者数

	度数	パーセント
有効 講座	28	14.3
7月1日ブース	29	14.8
7月1日体験	10	5.1
7月2日体験	39	19.9
7月3日ブース	90	45.9
合計	196	100.0



企画別参加者と所属のクロス表

		所属												合計
		産社	法	文	政策	経済	経営	国関	院生	VC 受講生	教職員	その他	理工	
企画別	講座	19	1	1	1				1	2		3		28
	企画別参加者の %	67.9%	3.6%	3.6%	3.6%				3.6%	7.1%		10.7%		100.0%
	7月1日ブース	19	5	3					2					29
	企画別参加者の %	65.5%	17.2%	10.3%					6.9%					100.0%
	7月1日体験	6	1		1		1					1		10
	企画別参加者の %	60.0%	10.0%		10.0%		10.0%					10.0%		100.0%
7月2日体験	度数	25	1	7	1		1					3	1	39
	企画別参加者の %	64.1%	2.6%	17.9%	2.6%		2.6%					7.7%	2.6%	100.0%
7月3日ブース	度数	53	4	6	9	1		1	6		4	6		90
	企画別参加者の %	58.9%	4.4%	6.7%	10.0%	1.1%		1.1%	6.7%		4.4%	6.7%		100.0%
合計	度数	122	12	17	12	1	2	1	9	2	4	13	1	196
	企画別参加者の %	62.2%	6.1%	8.7%	6.1%	.5%	1.0%	.5%	4.6%	1.0%	2.0%	6.6%	.5%	100.0%

企画別参加者と回生のクロス表

			回生				合計
			1回生	2回生	3回生	4回生	
企画別	講座	度数	9	2	9	3	23
		企画別参加者の %	39.1%	8.7%	39.1%	13.0%	100.0%
	7月1日ブース	度数	13	4	8	2	27
		企画別参加者の %	48.1%	14.8%	29.6%	7.4%	100.0%
	7月1日体験	度数	1	6	3		10
		企画別参加者の %	10.0%	60.0%	30.0%		100.0%
	7月2日体験	度数	9	9	14	4	36
		企画別参加者の %	25.0%	25.0%	38.9%	11.1%	100.0%
	7月3日ブース	度数	14	31	20	10	75
		企画別参加者の %	18.7%	41.3%	26.7%	13.3%	100.0%
合計	度数	46	52	54	19	171	
	企画別参加者の %	26.9%	30.4%	31.6%	11.1%	100.0%	

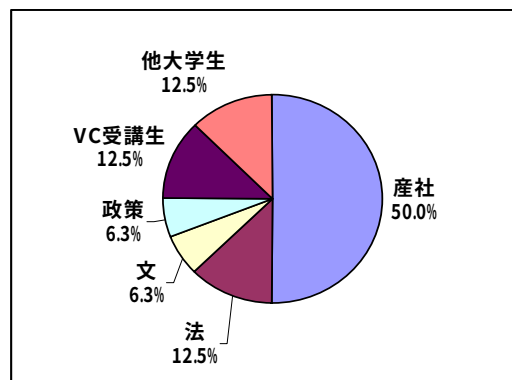
【資料 7】

1. 講演会・体験

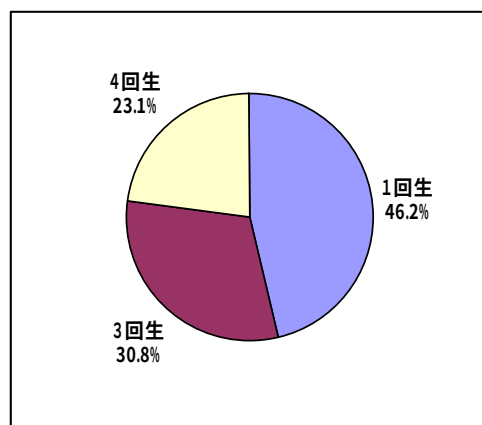
講演会ではボランティア活動を理解する為にきょうと NPO センター深尾氏による講演会及びディスカッションを通して、ボランティア意識を深めることを目的とした。

講演会

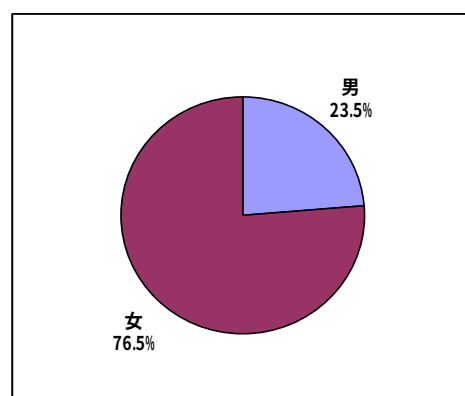
所属		度数	パーセント	有効パーセント
有効	産社	8	44.4	50.0
	法	2	11.1	12.5
	文	1	5.6	6.3
	政策	1	5.6	6.3
	VC受講生	2	11.1	12.5
	他大学生	2	11.1	12.5
	合計	16	88.9	100.0
欠損値	無回答	2	11.1	
合計		18	100.0	



回生		度数	有効パーセント
有効	1回生	6	46.2
	3回生	4	30.8
	4回生	3	23.1
	合計	13	100.0



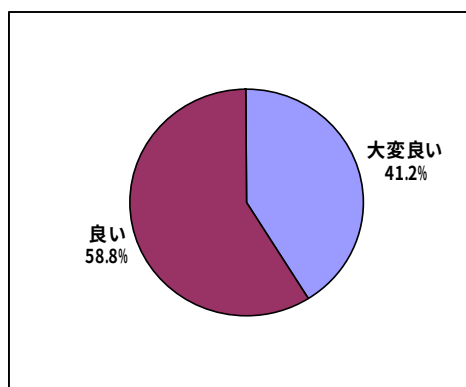
性別		度数	パーセント	有効パーセント
有効	男	4	22.2	23.5
	女	13	72.2	76.5
	合計	17	94.4	100.0
欠損値	無回答	1	5.6	
合計		18	100.0	



【資料 7】

1. 講演の評価

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	大変良い	7	38.9	41.2
	良い	10	55.6	58.8
	合計	17	94.4	100.0
欠損値	無回答	1	5.6	
合計		18	100.0	



<理由>

(大変良い)

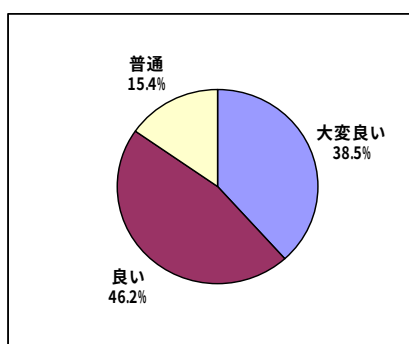
- そこんとこが知りたかった。
- 自己実現のためにやっているや、グループ内での恋愛でうまくいなくなるなど、今まで感じたことの話などが出てきた。
- わかりやすく話が上手
- 分かりやすく良かった。学校では聞けなかったマイナスの部分などを聞いたのが特に良かった。

(良い)

- いろいろと興味深い話が聞けたので
- ボランティアや NPO のイメージを今までよりもはっきりとした形で捉えることができた。
- 深い意味がわかった
- ボランティアとは何かということが深く考えられた。
- 知らない知識を得られた。

2. グループディスカッションの評価

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	大変良い	5	27.8	38.5
	良い	6	33.3	46.2
	普通	2	11.1	15.4
	合計	13	72.2	100.0
欠損値	無回答	5	27.8	
合計		18	100.0	



【資料 7】

<理由>

(大変良い)

- 障害者との旅行という話の中で、障害者とならやるのが狭まりそうだと思っていたが、視線を合わせたときに世界が広がってくるという話がよかった。
- 他人の意見や考えを聞いたのが良かった。
- 内容はともかく、こうした機会をなかなか設けることもなかったのでは

(良い)

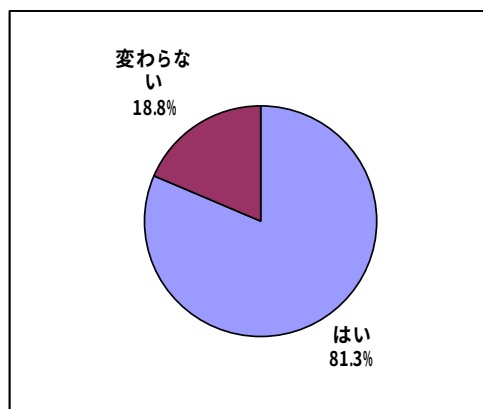
- みんなボランティアにどういう印象をもっているのか知れた。
- ボランティアについて色々な考えがあることがあらためて分かった。
- 皆さんの違う意見が聞けてよかった。
- いろいろな意見が聞けて勉強になった

(普通)

- 自分なりの答えは見つからなかった。

3. 今日の講演でボランティアを身近に感じたか？

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	はい	13	72.2	81.3
	変わらない	3	16.7	18.8
	合計	16	88.9	100.0
欠損値	無回答	2	11.1	
合計		18	100.0	

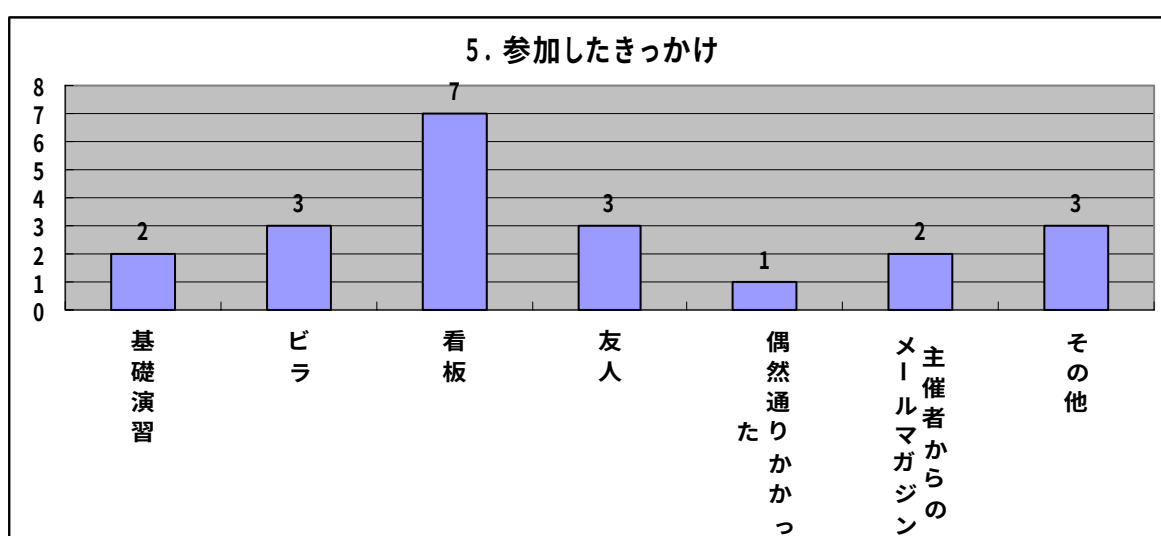


4. 特に印象に残った言葉や内容

- ポルノ小説の点訳。プロのボランティアの意味が分かった。アマチュアではありえない。
- 「無理をしない」ということ。昔、ボランティアにのめり込みすぎて、しんどくなったことがあった。今は無理をせず、自分のできる範囲でしているが、今回のような話がもっと早くに聞ければと思ってしまった。
- 善意のミスマッチ。課題があるから成り立つ。

【資料 7】

- 「善意のミスマッチ」の話は、潜在的に多くの場面にあると思う。そのミスマッチを誰がマッチにしていくかを考える必要があるのではないだろうか。
- 社会とのつながり
- 昔は普通にやっていたことをボランティアと呼んでいること
- 逆ボランティア
- 課題解決したら、バンザイといって解散する。
- コーディネートの重要性
- 自己滅却型奉仕



体験では実際、体験をして理解することがボランティア活動の第一歩だと考え、障害者疑似体験・車椅子体験・高齢者疑似体験・ノートテイク講座を二日間に渡って行った。

II. ブース

今回、我々はボランティア活動を活発に展開している学内のサークルや外部の団体をお願いして、単なるパンフレットや冊子等での紹介と言うものでなく、実際に活動しているメンバーに来ていただいて、その活動内容を直接に聞けるようにブース形式のボランティア団体紹介を行った。

我々と同じ立命館大学の学生達がボランティア活動をどのような分野で、具体的にどんな活動をし、その活動から得られるもの、楽しさや苦しさ、失敗や成功等、ボランティア活動のありのままの現実をブースに来てもらっている各種のボランティア団体・サークルのメンバーか

【資料 7】

ら聞くことができる機会を提供できると考えたからである。

その際、来場者及びブース参加のボランティア団体・サークルの人たちに今回のボランティアガイダンスに対しての感想及びアンケートをお願いした。

ボランティアガイダンスブース入場者数は初日 29 人、アンケート回答者は 16 人で回収率は 55.2%。二日目は入場者数 90 人、アンケート回答者は 25 人で回収率は 27.8%。両日の入場者数は 119 人、アンケート回答者は 41 人で回収率は 34.5%であった。

ブース

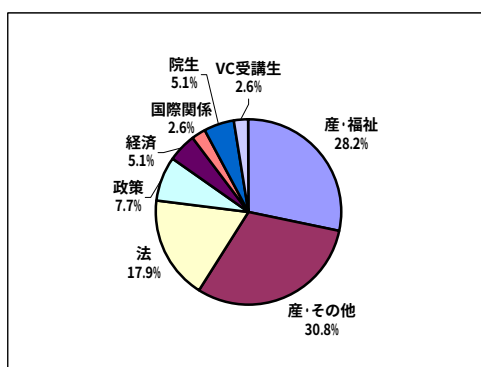
日付

		度数	パーセント
有効	7月1日火曜日	16	39.0
	7月3日木曜日	25	61.0
	合計	41	100.0

[日によって参加者数に大きく変化があったのは、1回生の基礎演習などのカリキュラム関係上による曜日の影響か、それとも徐々にボランティアガイダンスが口込みなどにより広まったのか]

所属

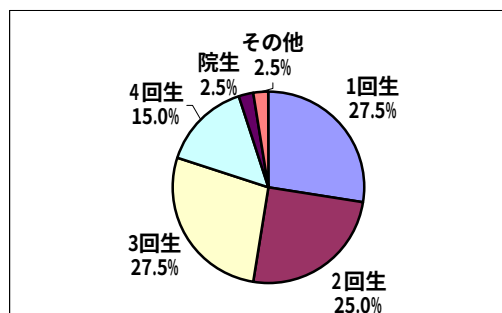
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	産・福祉	11	26.8	27.5
	産・その他	12	29.3	30.0
	法	7	17.1	17.5
	文	3	7.3	7.5
	政策	2	4.9	5.0
	経済	1	2.4	2.5
	国関	1	2.4	2.5
	院生	2	4.9	5.0
	ボランティアコーディネーター受講生(社会人)	1	2.4	2.5
	合計	40	97.6	100.0
欠損値	無回答	1	2.4	
合計		41	100.0	



【資料 7】

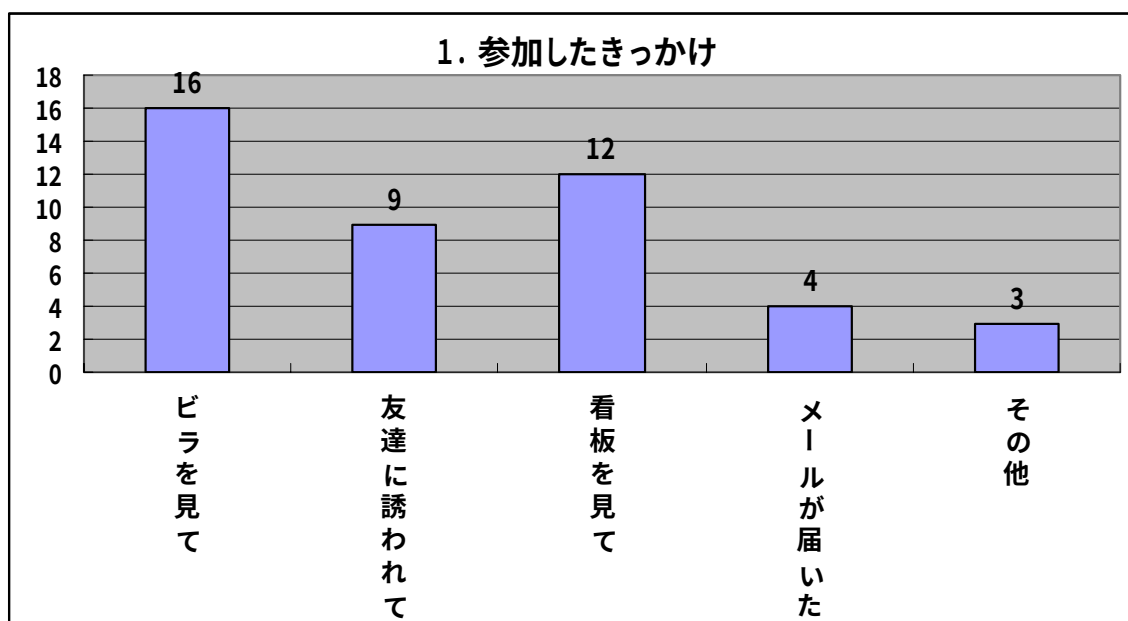
[産業社会学部生の参加者数が多かったのは場所的なものなのか、産業社会学部生にボランティアに興味のある人が多いのか]

回生				
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	1回生	11	26.8	27.5
	2回生	10	24.4	25.0
	3回生	11	26.8	27.5
	4回生	6	14.6	15.0
	院生	1	2.4	2.5
	その他	1	2.4	2.5
	合計	40	97.6	100.0
欠損値	無回答	1	2.4	
合計		41	100.0	



[どの回生も興味を持っているということがうかがえる。

4回生は就職活動などで参加できなかったのではないかと考えられる]



[1ビラを見て、2看板を見て、3友達に誘われて という順に多く、
ビラでの呼びかけが有効的であったことがうかがえる]

【資料 7】

2.他の企画への参加

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	講演会	2	4.9	50.0
	体験	1	2.4	25.0
	講演会と体験	1	2.4	25.0
	合計	4	9.8	100.0
欠損値	無回答	37	90.2	
合計		41	100.0	

[ブースの参加と講演会や体験の参加には、相関関係は認められない]

3. ブース企画に来場した理由、目的

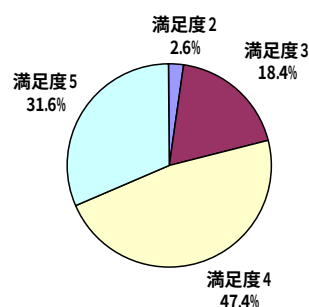
- 何かボランティアをしたいと思って
- やっぱりいろんなものを見聞きしておくことは大事だと思ったから
- 自分のできる範囲で、何かやってみたいと思ったから
- なにかボランティアがしたくて。国際とか環境とかに興味があったので
- 通りかかったので
- 自分の参加するサークルが出展したため
- サポート隊を見に来た
- 通りかかってボランティアに興味があったから
- 授業を受けていることで興味が湧いた
- 以前から、子どもと接するボランティアに興味があったけど、時間がなく、アプローチする機会がなくて、友人がビラを配っていたので
- 前から興味を持っていた
- 興味があったから
- ボランティアがしたかったから
- 国際ボランティアに興味があるから
- 夏休みに何をしようか考える参考にしようと思ったので
- 「ボランティアって何？」の気持ちがあったので、疑問解消のため
- どんなことをしているのか気になったので
- 夏休みにボランティア経験をしたいから
- 勧誘を受けて
- ボランティアに興味があったため
- どんな活動があるのか

【資料 7】

- 通りがかり、時間があったので
- 前から興味があったので、どんな団体があるのか知りたかった
- 何かいいことがあれば、と思ったから
- どんなボランティアがあるのか知りたかったし、実際に話を聞きたかったから
- 興味があったから
- 休みの日（夏休みなど）に何かボランティアを体験したくて
- ボランティアをさせてもらえる団体を探すため
- チラシをもらいに来た
- 夏休みを前にして、何か打ちこめる機会を見つけたいから
- 何か自分にできるボランティアの団体があればと思って来た
- 一目でボランティアグループの活動内容がわかるため。ボランティア活動をしたいため

4. 参加した満足度

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	満足度2	1	2.4	2.6
	満足度3	7	17.1	18.4
	満足度4	18	43.9	47.4
	満足度5	12	29.3	31.6
	合計	38	92.7	100.0
欠損値	無回答	3	7.3	
合計		41	100.0	



〔学生の参加した満足度は4と5を合わせると73.2%あり、ブース型式のボランティア紹介は大体の参加者に満足を与えたといえる〕

<理由>

- (⑤) たくさんの情報が得られる機会になったから。またスタッフの方がホントにとっても親切に接してくださって、嬉しかった
- (⑤) 興味が湧いた。「きっかけ」ができた
- (⑤) 皆さん熱心に説明してくれて大変興味深かった。ボランティアを楽しんでいる様子が伝わってきた
- (⑤) ビラだけでなく、実際に話できたのがよかった
- (⑤) ボランティアをしたかったけど、どこにどんなものがあるかわからなかったから良かった
- (⑤) いろいろ親切に話を聞かしてもらえた

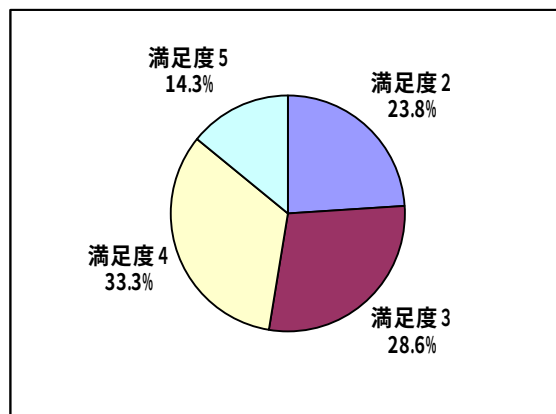
【資料 7】

- (⑤) いろんな団体が一堂に集まっていたよかったです。自分の出身サークル（リトルトーラス）も見れて楽しかった
- (⑤) いろいろな話を聞けた
- (⑤) たくさんの情報をいただいた
- (④) NICE に興味があったので
- (④) こんな活動もあるんだって知ることができたので
- (④) 知りたい情報が得られたから
- (④) ちゃんとした説明をしてくれた。飴付きで
- (④) ボランティアにはそれぞれの答えがあれば OK な点に気づけたから
- (④) ボランティアをしたい人と求めている人をつなげる場所、つなげる人は必要だと思った
- (④) 興味のある分野で話が聞けてよかった
- (④) お話を聞けて、興味を持った団体があったから
- (④) おもしろそうなんだけど、もうちょっと具体的にしゃべってもらいたかった
- (④) 今までボランティアのことはあまり知らなかったけど、今日来て、詳しく知ることができた
- (④) 自分のニーズにあったものがあった
- (④) 自分の時間がなかったので、もうちょっとゆっくり見ればよかった
- (④) 実際に活動している方の話を聞くことができたのがよかった
- (④) どのブースも丁寧に話をしてくれた
- (③) 自分自身がボランティアとして考えているテーマがなかったため
- (③) 様々な種類があることに驚いた
- (③) 遅くに来たので、十分話を聞けなかった
- (③) 具体的にめあてにしているブースがなかったから
- (②) 人が来ない

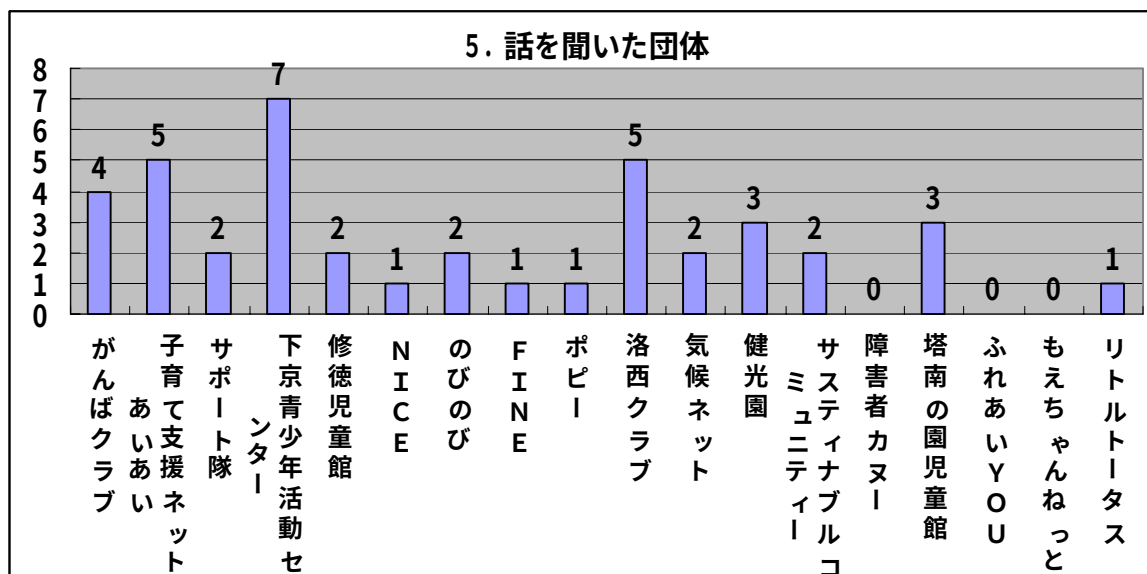
【資料 7】

参加団体の満足度

		度数	パーセント
有効	満足度2	5	23.8
	満足度3	6	28.6
	満足度4	7	33.3
	満足度5	3	14.3
	合計	21	100.0



5. 話を聞いた団体

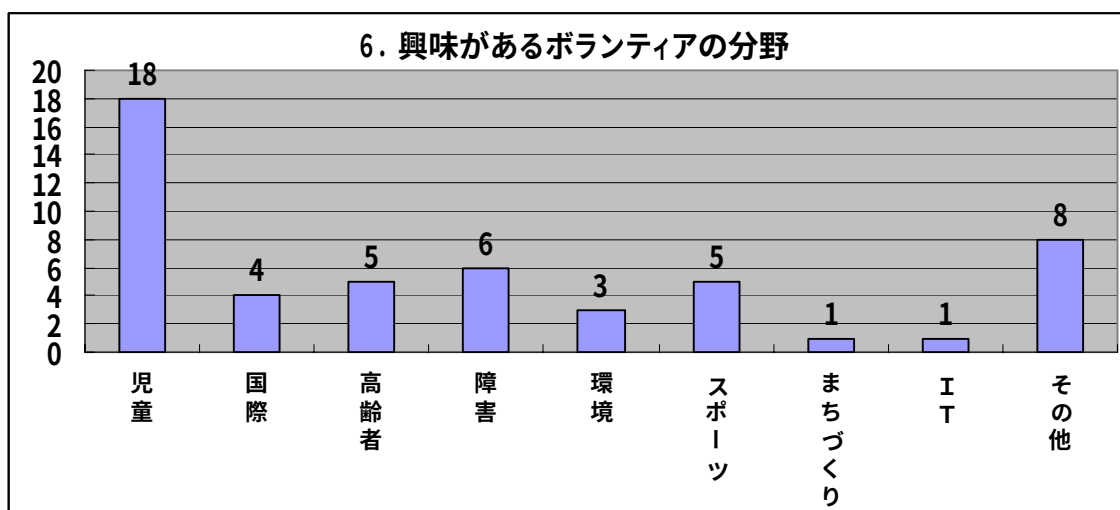


ボランティア団体が対応した参加者数

	度数	パーセント
有効	0人	2
	1～3人	8
	4～6人	4
	7～9人	4
	10人以上	3
	合計	21
		100.0

[ポスターやチラシだけを見て、直接ボランティア団体に話した人が少ないことがいえる。直接話を聞ける機会を生かせていない]

【資料 7】



（「その他」の回答）

在日外国人の人と関わるボランティア、いろんな分野をみてみたい、子どもへの本の読み聞かせ、就業している方の余暇活動、葬送、保育、単発のボランティア、観光

[1 児童、2 障害、3 高齢者、スポーツ の順に多く、圧倒的に児童分野に興味のある人が多くいることがいえる。これは産業社会学部の参加が多いことが影響しているのか、それとも他学部にもっと呼びかけることができれば、もっとITなどの他分野の参加が多くなったのではないかと考えられる。また、スポーツを通してボランティア活動をしたいとの意見を持つ人がかなり児童との関連を求めている。このように今までのボランティアに対するイメージは児童や高齢者や障害者に偏っていたが、ブース参加団体にサステナブルコミュニティといったIT分野などがあったことから、ボランティアに対する視野が広がったのではないかと考えられる]

7. ボランティア経験

		度数	パーセント	有効パーセント
有効	ある	20	48.8	58.8
	ない	14	34.1	41.2
	合計	34	82.9	100.0
欠損値	無回答	7	17.1	
合計		41	100.0	

[約半数の人がボランティア経験をしていたことがうかがえる。ボランティア経験のない人も含めボランティア情報を入手したいと望んでいることがわかる]

【資料 7】

8. ブース企画の気付きや感想

- 私が人見知りすることもあります。ブースに座るのはちょっとは恥ずかしいです。呼び込んでくれて、ちょっと助かりました。受け身じゃいかんと思いつつ…
- パソコンでいろいろ調べていたのですが、なかなか決められずに困っていたところ、今日の朝チラシをもらって、本当に「グッドタイミング!!」って感じでした。お世話になりました。ありがとうございました!!
- 障害者ボランティアがとても多かった。もっといろんなジャンルを集めてほしいと思った。
- 人が来ない
- 開けてて、入りやすかった。入って、じーっと見られるといづらいけど。
- 興味があっても 1 人では面倒で探さないで、今回のようなまとまった機会があるといいと思う。
- 良い機会でした。来て良かったです。
- 話が聞けて良かったです。
- 非常に丁寧に説明していただき、満足しています。
- もっと気さくにしゃべってくれてもいい。
- 声もかけていただいたし、自由に見れるし、良かったです。
- こじんまりして、わかりやすかった。

9. ボランティアセンター設置への興味・関心の有無

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	はい	30	73.2	83.3	83.3
	いいえ	2	4.9	5.6	88.9
	何かわからない	4	9.8	11.1	100.0
	合計	36	87.8	100.0	
欠損値	無回答	5	12.2		
合計		41	100.0		

(プロジェクトへ要望)

- ホームページがあればいいのでは？と思います。
- 設立は絶対必要だと思います。マメに宣伝の必要がありますね。なぜなら将来、人と関わって生きる訳だから。
- 聴覚障害者のためのサポート

【資料 7】

- ボランティアサークル間のネットワークづくり。メーリングリストをつくって、サークル間の活動の人数調整をすることができたらよいと思います。

【執筆者(スタッフ)紹介】

ーボランティアコーディネーター養成プログラムを修了してー

● 荒牧 弥生

ボランティアを必要とする側とボランティア活動を希望する側、この二つの存在の橋渡しとして活躍するボランティアコーディネーターという専門職に魅力を感じ、この講座を受講した。

養成講座の大きな特徴の一つとして論文作成へつながるボランティアインターンシップがある。私たちのグループは、社会福祉協議会・ボランティア・施設（ボランティアコーディネーター）、この三者の結びつきに大きな関心を持ち、京都市社会福祉協議会を同じ運営母体とした、京都市の全老人デイサービスセンター（14 施設）を調査対象とした。施設ボランティアに対するアンケート調査（250 枚配布・有効回答数 150 枚）や、全施設ボランティアコーディネーターに対してのアンケートとヒアリング調査などから、それぞれの老人デイサービスセンターでのボランティアコーディネーターの現状、その施設におけるボランティアの意識、同一の運営母体においての施設間の違い、そして施設ボランティアコーディネーターの役割・課題・展望を導き出す事が出来た（ボランティアコーディネーター運営委員会編『ボランティア社会学研究紀要』第4号、2003年3月、12 ページに記載）。

一年間にも及ぶ養成講座によって、私なりのボランティア観の確立、ボランティア意識の向上、そして社会人の方々と共に学ぶ事でまた一味違った学習の機会をえる事が出来た。この講座を受講した事により、ボランティアセンター設立プロジェクトに参加したきっかけになったことは言うまでもないだろう。

● 小笹 蓉子

私はボランティアコーディネーター養成プログラムで、前年度の受講生が上京区成逸学区の住民を対象に行った、住民の要望や地域の活動についてのアンケートから、現状・問題点を分析し、住民福祉協議会（住協）の方々に伝えたり、インターンシップを通し地域住民との直接的な交流の機会を持ったり、住協会長と何度かお話しをさせて頂く中で、その地域に合った住民参加型福祉について学んだ。このように1つの地域に入り、じっくり見せて頂いたのは初めての経験であった。また、同じグループ内にはすでに地域で活動を積極的に行っておられる方も多く、皆さんの地域を良くしていきたいと

いう思い・愛着を強く実感した。ここで学んだ視点をボランティアセンター設立に向けての取り組みにも活かしていけるよう、活動していきたい。

● 櫻井 章

現代は「リストラ」「勝ち組みや負け組み」といった言葉が象徴するように熾烈な競争社会です。多くの者は負け組みになり、勝ち組みになる者は少数です。そこには金銭のみならず心の貧しさや惨めさが覆っている。それ故、お互いが助け合い、安心・安全・安定を感じられる地域・社会作りが必要になってくる。ボランティア活動が唱えられる理由の一つはここにあり、お互いに「人のために役立っている」という喜びがその活動を通して実感できる。私はこの喜びこそ本当の心の豊かさだと思います。

今回のボランティアセンター設立に向けての取り組みの中で、自分らしいボランティア活動をしたいと考えている学生が多くいること知った。しかし、そのボランティア活動への思いを単なる"思い"で終わらせてしまうことは惜しい。多くのボランティア情報を提供できるよう、立命館大学学生ボランティアセンターの早急なる設立を今年卒業する者として後輩にこの夢を託したい。

● 中尾 咲代子

私は、大学に入ってボランティアというものを初めて経験した。その中で自分の視野の広がりや人と関わることの有難さを感じた。ボランティアコーディネーター養成講座では、NPOで学生に対する国際ボランティア合同説明会の企画運営を行った。学生はボランティア活動をしやすい環境にあり、その経験を新しいことに還元できる。しかし、何らかの壁がある。この合同説明会の企画運営を通じて、壁を壊し可能性を広げる場として、ボランティアコーディネートの重要性を改めて感じた。企画を進めるには、しっかりとした目標と細かい作業が必要だ。一つ一つのステップを踏みながら、コーディネートの場を作り上げていくことは大変面白く勉強になった。ここでの経験を学内でのコーディネートにも活かすことができたと思う。学生が積極的に社会に触れ、自らの成長や喜びを通して、より豊かな社会との関係を作っていけるような環境を整えていきたい。

● 橋本 智里

中学、高校生時代からボランティア活動を行ってきた私は、ボランティアコーディネーター養成プログラムを受講したいと強く思っていた。そして、その念願は叶い、ボラ

ンティア活動をする立場だけでなく、ボランティア活動を希望する側とボランティアを必要とする側を結びつけるコーディネーターやボランティア受け入れ側についての学びを深めることができた。そこで、私自身が一番成長したと感じるのは、幅広い視野で物事を考えられるようになったことである。それは、3者の立場に立って一つの「ボランティア」について調査を行ったこと、また社会人と一緒に一年間を過ごし、共に考え、話し合い、学ぶことができたからこそ、培うことができたと感じている。このプログラムを経て、今年度、私たちの行ったボランティアガイダンスを通して、ボランティア活動をしたいと思っている人が本学にもものすごく多いということを実感した。その思いを実現し、ボランティア活動を通じて色々なことをたくさんの人々に学んでもらいたい。やはり、ボランティアセンターの担っている役割はとても重要である。

● 福住 真希

私は昨年のボランティアコーディネーター養成プログラムのインターンシップにおいて、きょうと学生ボランティアセンター内の一つのシステム設計に携わった。そのシステムとは、様々な活動を行っている学生サークルと、学生の力を必要としている社会福祉施設を繋げるといったものであった。このシステムを私たちは5人の力で完成させた。多い時には週1回のミーティングで個々の仕事の分担や進行状況を報告する。そして、その話し合いを元に、システムを知ってもらう為の広報活動や、各団体・施設への依頼活動などを積極的に行った。そして同時に、施設から依頼があった場合のシステム全体の流れをミーティングを重ねることによって決定した。このミーティングでの話し合いによって、個々の意見を出し合って決定していく事の難しさを知った反面、発言能力は向上したように感じる。この活動を通して、本当に様々な力を付ける事が出来た。

● 藤井 綾子

大学は、生き生きとした若者で溢れ、様々なチャンスがあちこちに転がっている。高校生までは一つのことを根気強くする性格で、広い世界をあまり知ろうとしない私だったが、大学では出来る限りのチャレンジをしたい！と心に決めていた。私なりに興味のあることには参加し、多くの出会い・経験を得る事が出来た。その一つがボランティアコーディネーター養成講座である。様々な立場の人と出会い、学びあった。そして、講座内のインターンシップではサークル活動をする学生と社会福祉施設を「行事」を介してコーディネートするシステムに携わり、システム設計や広報活動、実際の行事の取

材等を行った。結びつきのきっかけとなる事責任、やりがいの大きさを感じた。大学は、誰もが興味あることにチャレンジできる環境であるべきだと思う。その実現に向けて架け橋となるボランティアセンターの持つ役割は非常に大きい。この活動に関わって、大変嬉しく思う。

● 三井 貴浩

このボランティアセンター設立プロジェクトというのは、ボランティアコーディネーター養成講座の修了生による、次のステップの企画であると聞いていた。ボランティアコーディネーターの講座を受講していない私がこのプロジェクトに入っているものかどうか、初めは戸惑いがあった。しかし、一度入ってしまえばメンバーは個性的ないい人ばかりで、最初の戸惑いはいつの間にか消えていた。

私はこのプロジェクトを通して、私なりに「ボランティア」というものを学ばせて頂いた。特にガイダンスで感じたのが、「ボランティアというのは、人と人との新たな出会いの場である」ということだ。実際に私もこの活動を通してたくさんの方とお会いし、話しをすることができた。そして何よりうれしかったのが、そういった出会いのお手伝いを、この活動を通してできたことである。この気持ちを忘れることなく、これからも活動に取り組みたいと思う。

● 村端 紗千

私は、ずっと「ボランティア活動とは何だろう？」という疑問を抱いていた。私自身、様々なボランティア活動を行ってきたがその答えまでには辿り着けずにいた。そんな時、ボランティアコーディネーター養成講座のチラシを教室で見かけ、応募したのだ。一年を通してボランティアを体系的に学び、様々なボランティアの知識を吸収できた。また、インターンの経験から「ボランティア講座が学生に及ぼす影響」と題して論文執筆に至った。今回、ボランティアセンター設立プロジェクトに参加し、学生がガイダンスを通して、新たな世界を知ってくれたことは非常に嬉しい。ある学生は「ボランティアガイダンスに行ってみて、ボランティア活動を始めたんです」と言ってくれた。私達の見えない所で、ガイダンスは学生に新たな世界を与えたのではないだろうか。

最後に私なりのボランティア活動の定義を述べることにする。「ボランティアは相互依存であり、気持ちの交換である」

● 山根 玲子

私は昨年のボランティアコーディネーター養成プログラムのインターンシップを「インターネットを使った情報発信について考える」ということをテーマに行った。その内容は全国各地から無作為に選んだボランティアセンターのホームページを比較し、ボランティアの情報発信に必要なコンテンツは何なのか、ボランティアをはじめたい人にとって使いやすいページはどういったものなのかということを研究するというものだった。情報化社会といわれる現代でも情報がなくてボランティアを始められないという人が多くいる。ボランティアを始めるためにはまず多くの情報が必要であることを再認識し、情報提供の重要性を常を感じている。ボランティアセンターを設立する際にも「情報」は欠かせないものである。このインターンシップで学んだことを活かし、情報面からサポートしていけるセンターを設立したい。

● 山本 佳菜江

ボランティアがよくわからないと思ってきた。中高と、知らず知らずのうちにボランティア活動という「なんか楽しいもの」にちょくちょく足を踏み入れるようになったことで、逆にボランティアを定義付けられなくなった私であったが、色々な経験をしてきた人と関わったら、何かわかるかもしれない、と養成講座に応募した。十人十色の受講生とともに時を過ごす中で、「よく分からないまま」なりにではあるが、知り得なかった側面や、視点、考え方を発見することができたと思っている。講座内のインターンシップにおいては、ユースアクションという、京都のそれぞれの区で行なわれている中高生対象の「ボランティア、福祉体験」に参加し、青少年のボランティア活動の現状や展望を調査した。